

公募助成「腎不全病態研究助成」研究サマリー

研 究 名 称	血液透析患者における腸内細菌叢の変化による貧血改善への試み
氏 名	西谷 光広
所属機関	だいもん内科・腎透析クリニック
<p>【背景】血液透析患者において貧血の原因の一つとして鉄欠乏がある。鉄は腸内にて3価から2価に還元されて吸収することができる。近年、腸内細菌叢が鉄の還元作用を促進しているとの報告がある。血液透析患者の腸内細菌叢を鉄の吸収を促進させる腸内細菌叢に変化あるいは増殖させることが可能であれば、ESA低反応性患者の貧血の改善に寄与できるのではないかと期待できる。</p> <p>【目的】当クリニック外来血液透析患者において過去半年間ESAの投与量、リン吸着剤(リオナ®:クエン酸第二鉄水和物)の変更がなく且つ安定した患者を対象とし、対象患者にビオスリーOD錠を投与する。ビオスリーOD錠投与前、1ヶ月後、3ヶ月後と腸内細菌叢を検査し、鉄の還元作用に関与している腸内細菌叢に変化があったか検討する。また透析開始後にリオナ錠を内服し、透析前と透析開始2時間後に血清鉄を測定して鉄の吸収が変化したかどうか併せて検討する。それによって貧血が改善されたかを検討する。</p> <p>【結果】ビオスリーOD錠内服前と内服後1ヶ月で腸内細菌叢の変化は3名にFirmicutes門の割合の増加がみられた。バランス調整菌においては乳酸菌とビフィズス菌の割合の増加が1名にみられた。腸内細菌から乳酸菌が検出されなかった患者ではビオスリーOD錠を投与してもビフィズス菌は変化がなく乳酸菌は検出されなかった。貧血指標に関して、RBC、Hb、Hct、MCV、RDW-CV、reticulocyte、血清鉄、ferritinには変化がなかった。ヘプシジンは2名に減少傾向がみられた。その他電解質等の検査データにも変化がみられなかった。しかし、透析開始2時間後の鉄吸収の程度に関しては、3名に上昇傾向がみられた。</p> <p>【考察】貧血改善がみられなかったことは、観察期間が3ヶ月と短いことや、対象患者が4名と少ないことが挙げられる。リオナ錠内服後の血清鉄濃度において上昇傾向がみられたことは、鉄の吸収が少なからず促進していることが示唆される。今後は観察期間を長く設定し調査していきたいと考えている。</p>	